

# News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和2年9月

厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？さっそく Newsletter 第31回配信です！どうぞお楽しみください。

## 〈 診療科紹介 小児外科 〉

自治医科大学には敷地内にとちぎ子ども医療センターが併設されており、3階の渡り廊下でつながっています。小児科をはじめとして、小児外科、小児・先天性心臓血管外科、小児泌尿器科、小児整形外科、小児脳神経外科、小児移植外科、小児形成外科、子どもの心の診療科、小児耳鼻咽喉科、小児歯科口腔外科、そして小児画像診断部があり一つの建物の中で診療を行っています。

小児外科はとちぎ子ども医療センターにおいて、18歳までの小児の外科疾患に対する診断および治療を行っています。県内で2つしかない日本小児外科学会認定施設ですので、症例数は多く、年間約450例の手術治療を行っており、新生児（生後30日未満）の外科手術数も年間30-40例と国内でも有数です。診療体制は日本小児外科学会認定指導医2名、専門医3名を含めた専従医7名とレジデントで、24時間365日体制で治療を必要とする子どもたちを受け入れています。診療方針は子どもに優しい医療をめざし、『世界トップレベルの小児外科医療を地域の子ども達へ』をモットーにしています。小児外科の守備範囲は、頭のてっぺんから足の爪先までと幅広く、先天性の呼吸器疾患、消化器疾患から肝・胆・膵、そして悪性腫瘍まで手術治療を行っています。

新専門医制度のもとでは、2年間の初期研修後、まずは外科の研修を始めていただき基本的手技や術前術後管理を学びます。そして、（並行して）小児外科の専門研修を開始し、外科専門医取得後に小児外科専門医を取得します。日本外科学会、日本小児外科学会とも密に連携して、若い先生が充実した研修を行い早い時期に小児外科専門医を取得できるように研修制度を構築しています。

学生のみならず初期研修中の先生の見学や相談も大歓迎です。外科に興味があって子どもの笑顔が嫌いでなければ、是非一度見学に来てください。子どもの笑顔と外科手術の虜になりますよ。



## 【医師国家試験予想問題】

1. 小児の消化管異物で直ちに摘出すべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 食道内の硬貨
- b 胃内の硬貨
- c 胃内のボタン型電池
- d 胃内のプラスチック玩具
- e 小腸内の磁石

正 解： a、c

解 説：

小児の消化管異物は、頻度も高く、日常診療で比較的良好に遭遇する疾患である。基本的には食道異物は全例早期摘出術の適応である。胃内異物は鋭利なものや幽門を通過できない大きなものは摘出術を要する。また、胃内でもボタン電池は放電により腐食が進むため早期の摘出が推奨される。その他は、保存的経過観察にて自然排泄を待つのが原則である。通常、幽門を通過した消化管異物は自然排泄されるが、複数の磁石の誤飲は長期的に小腸内に留まることがあるため、注意が必要である。

2. Hirschsprung 病について誤っているのはどれか。

- a 原因は腸管壁神経節細胞の先天性欠損である。
- b 胎便排泄遅延を認める。
- c 病変部腸管が拡張する。
- d 診断には直腸粘膜生検が有用である。
- e 短域型は一期的根治術を行う。

正 解： c

解 説：

- a 腸管壁神経節細胞の先天性欠損が原因で、肛門から連続する無神経節腸管が特徴である。
- b 典型例では新生児イレウスを呈し、胎便排泄遅延を伴った腹部膨満と胆汁性嘔吐が認められる。
- × c 拡張している腸管は無神経節腸管より口側の腸管であり、多くは神経節細胞が認められる。
- d 診断には腹部エックス線撮影、注腸造影検査、直腸肛門内圧検査、直腸粘膜生検が有用である。
- e 根治には手術治療が必要であり、無神経節腸管の短いタイプでは経肛門的一期的手術が行われる。